

仙台市公民館運営審議会議事録

(令和3年1月定例会)

○ 日 時

令和3年1月14日(木) 午前10時00分～11時45分

○ 会 場

仙台市生涯学習支援センター 5階 第1セミナー室

○ 出席者

〔委員〕 相澤雅子委員、安藤歩美委員、市瀬智紀委員、大内幸子委員、幾世橋広子委員、齋藤和平委員、佐々木稔委員、佐藤正実委員、柴田真理子委員、牧靖子委員、八十川淳委員

〔事務局〕 生涯学習支援センター：センター長 佐藤、センター次長 千葉、事業係長 福本
青葉区中央市民センター：センター長 小嶋
宮城野区中央市民センター：センター長 大石
若林区中央市民センター：センター長 湯村
太白区中央市民センター：センター長 渡部
泉区中央市民センター：センター長 内海
生涯学習部長 筒井
生涯学習課長 田中
公益財団法人仙台ひと・まち交流財団：市民センター課長 古城
南光台市民センター：館長 丹治

〔傍聴人〕 なし

○ 資 料

次第

資料1：新型コロナウイルス感染症との共生時代の市民センター事業に関する意見について

資料2：仙台市市民センター事業に係る調査研究について(案)

資料3：市民センター事業説明書「青陵インパクト」

資料4：市民センター事業説明書「南光台をもっと元気に委員会2」

資料5：市民センター事業説明書「つるっこ画樹園～実れ！鶴心(ツルコ)！！」

資料6：子どもボランティア事業 チャイルドボランティア「チャボ！」

チャボ！通信(No.102)

参考資料1：市民センターを拠点とした新しいまちづくりの提案—仙台プラン—

1 開 会

(資料の確認)

事務局：本日は、11名の委員の皆様にご出席いただいております。仙台市市民センター条例施行規則第10条第3項の規定により委員の過半数である8名以上の出席を満たしておりますので、有効な会議として成立しておりますことをご報告申し上げます。

2 挨拶

(センター長挨拶)

事務局：本日は会長が欠席のため、進行は市民センター条例施行規則第9条第5項の規定により、副会長に代行をお願いいたします。

副会長：この審議会は原則公開になっておりますが、傍聴の希望はございませんか。

事務局：本日はございません。

副会長：次に議事録の署名委員です。名簿順で、前は幾世橋委員でしたので、今回は齋藤委員をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

3 報告

(1) 今後の市民センター事業に関する意見について

- ・事務局より、新型コロナウイルス感染症との共生時代の市民センター事業に関する意見について、前回審議会での意見交換をもとに追加・修正した内容を、資料1として説明。
- ・上記意見を審議会からの意見とすることが承認された。

4 協議

(1) 仙台市市民センター事業に係る調査研究について

- ・事務局から、資料2により、今後審議会として「子ども参画型社会創造支援事業」の調査研究を進めることについて提案があり、了承された。

(2) 令和2年度子ども参画型社会創造支援事業について

副会長：今年度の青葉区と泉区の事業の実施状況についてそれぞれ説明願います。

事務局：

(青葉区中央市民センター長と担当の社会教育主事から、資料3により「青陵インパクト」について、泉区中央市民センター長と南光台市民センター館長から、資料4により「南光台をもっと元気に委員会2」について説明)

副会長：ありがとうございました。ただ今の説明について、まず、「青陵インパクト」についてご質問ありますか。はい、お願いします。

委員：どのような経緯でカードゲームに取り組むことになったのか。まちづくりに対して、カードゲーム

でアプローチすることに意味があると考えられてのことと思いますので、その辺りを知りたいというのが1点。

また、対象が青陵中等教育学校の生徒のみとなっている理由を教えてくださいと思います。

青葉区中央市民センター社会教育主事：1点目のカードゲームになった経緯は、青葉区まちづくり推進課から町内会の課題を聞く機会があり、学校の授業で町内会を題材にすることがあるか、また教科書に町内会の記載があるかという質問を受けたことがきっかけです。

やがては大きくなる子ども達に、町内会についてどのように伝えるか、自分の地域は自分達で支えていかなければ今後仙台市が立ちいなくなるということをどのように教えていけば良いのかと思い、ゲームが浮かびました。休み時間などに、遊びとして、少しずつ、自分達が様々な人達に支えられ育てられていたことに気付けば、大きくなった時に、今度は自分達が地域を支えていく番と言えるようになるのではないかと思ったからです。その後、カードにするかボードにするかと悩みましたが、カードゲームであればどこでもでき、持ち運びも楽で、かつ何人でもできる。また、一部を失くしたりした場合でも、修正や追加も可能なことから、ボードゲームではなくカードゲームにすることにしました。

青陵中等教育学校が対象となったのは、青葉区内（国見ヶ丘）にあること、生徒が広範囲から集まることから、多くの地域の情報を集めることができること、また、学校側が広範囲から集まる生徒と地域との関り方を模索していたことですが、生徒達の意欲が高いことも幸いしました。

委員：今、様々な学校で探求や課題研究等が盛んになってきていて、地域とのつながりを求めたいと考えている学校はかなり多いのではないかと思います。学校で生徒のボランティアグループを作り、それらのグループが地域に出て行って、様々な支援活動をするというパターンも増えていると思います。

この「青陵インパクト」に参加している生徒達の位置付けは、文化部なのか、フリーなのかということと、教員の関わり方です。食堂でいつも定例会をしていると書いてありましたが、先生方がどの程度管理をされているのか、また、市民センターの職員の方がどれくらい入っているのか、といったことを教えていただけると、こうした活動をしたと考えている他の学校の参考になると思います。

青葉区中央市民センター社会教育主事：この事業は部活動ではないので、文化部、運動部、生徒会活動などと掛け持ちしている生徒もいます。そのため、部活動の大会が近い場合などは当然休むことになり、強制ではありません。皆スマホを持っていますから、LINEグループを使ってその日の内容や次回の日程等を伝えるようにしています。確かに、活動の日時について、土日が良いのかなど悩むところですが、あえて部活動の時間に当てることによって、多様なタイプの生徒を多く集めることができたと思います。

ちなみに、青葉区中央市民センターの地区館では、今年度から「東二小やる気キッズ」という事業を実施しています。東二番丁小学校と市民センターは合築されているながら、接点がありませんでしたので、下校時間が早い日の2時以降に市民センターに来てもらうという設定としたことが成功し10人集めることができました。

青陵中等教育学校の先生方の関与はほとんどありません。報告書を作成し、生徒とその保護者に配付していますが、教頭先生にお願いして拡大版を校内に掲示してもらうほか、職員室回覧用も渡しています。

市民センター職員は私と前校長であった再任用職員の二人で対応しています。

委員：はい、大変よくわかりました。どうもありがとうございます。

生徒達がこれほど伸びているといったことを学校の先生方ももっと分かると良いのだが、といったお話であるように受け止められました。

副会長：他にどなたかいらっしゃいませんか。お願いします。

委員：去年の成果報告会の際、「青陵インパクト」参加者にインタビューをしに行ったのですが、報告している姿も、制服を着ているためか、他の小学生等と違いカチっとしてとても立派な印象を受けました。

今、お話を聞いていて、地域の町内会と接しているのであれば、吉成小学校、吉成中学校の地区の子供会や町内会にも声を掛けられないものか、一緒にできるものならば一緒にやれないか、青陵中等教育学校は特別という枠ではなく、もっと広く広めていった方が良いのではないかと思いました。地域の町内会で、青陵中等教育学校の生徒達が一生懸命に頑張っている姿を見て、他の子ども達はどのように感じているのだろうと少々考えてしまいました。

「インパクト新聞」ですが、去年、どのようなところに配付しているのか聞くと、目立つ場所に掲示しているが、他に配付したりはしていないということで、せっかくここまで作っているのにもったいないと思いました。その後どのように進めているかお聞きしたいと思います。

この新聞を作ったり、カードを作ったりすることは良いのですが、自己満足に終わらずに、もう少し広めて地域と交流を持っていただければ良いのではないかと感じました。

青葉区中央市民センター社会教育主事：確かに成果報告会では、子ども達は立派に見えました。実は最初は恥ずかしがっていましたが、「青陵の制服を着ているのだから、恥ずかしいけど頑張らなければ。」と自らスイッチを入れキリリとなるのがあの学校の生徒の素晴らしさで、その姿をご覧いただけだと思います。

地域の町内会との交流を進めたのは、町内会長が学校運営協議会のメンバーに入っていることがきっかけとなりました。校長先生が、会の中で「青陵インパクト」の活動を話題に出したところ、町内会長から「ぜひ、うちの町内会を取材して生の声を聞いてほしい。」との意向が示され、交流が始まりました。

他の学校の子ども達も加えることについては、募集方法、日程、活動場所、更に学校側との調整などハードルがかなり増えることが想定されるため、現時点では中高生が参加できるメリットがあるなど条件が整っている青陵の生徒を対象としています。

「インパクト新聞」は、青葉区内の市民センターに配布していますが、それ以上の線引きが難しいと考えていますが、青葉区中央市民センターのホームページでも紹介していますので、これを幅広く活用したいと思っています。

ご指摘のように、今後地域との交流を広げることは、我々も次のステップとして戦略的に取り組んでいきたいと考えています。

副会長：ありがとうございます。他にございませんか。はいお願いします。

委員：2つの事業のうち、南光台市民センターの事業は、平成30年度からスタートされているということですが、最初はシアターからということでしたね。シアターというと映画かと思うのですが、どのような内容の映画だったのでしょうか。例えば、地域を題材にしたような映画だったのでしょうか。どのようなところから始められたのか教えていただければと思います。

南光台市民センター館長：映画は、「せんだいメディアテーク」が保有している16ミリ映画の中から、子ども達にリストを渡して、小さい子から高学年まで楽しんでもらえるものという観点で選んでもらいました。それらの中から事前に5、6本位借りてきて試写した上で、最終的に3本位に絞って上映しました。ディズニーといった系統ではなくて、昔話など子ども達に楽しんでもらえそうなアニメを中心に、その中でも教育映画という分類になるかと思いますが、そちらを選定して上映しました。

副会長：泉区の事業の方に移りましたが、「青陵インパクト」についてはよろしいでしょうか。はい、お願いいたします。

委員：「青陵インパクト」と「南光台をもっと元気に委員会」、双方に関連することです。

「青陵インパクト」のカードゲームは、各学校の教頭先生と地域のコーディネーター全員を対象とする研修が青葉区中央市民センターで開催された際、体験させてもらったことがあります。非常に練られたもので、先生方の支援があったにせよ、子ども達がよくここまで作ったものだと感動したこと、インパクトを覚えたことを思い出しています。当時も、これをどのように広めていくのかと思っていましたが、やはりそこが難しい。今日、この公民館運営審議会の場で報告があり、委員の皆さん等に紹介いただき、今後研修でも活かしていただけるということで、私達一人ひとりがいわば伝道師となって、各地域や各部署に伝えることができれば良いと思っています。

「南光台をもっと元気に委員会」のシアターの方は、館長さんが元々視聴覚がご専門だったとお聞きし、なるほどそれでできたのだと納得しました。写真にも16ミリの映写機が写っており、内容も昔懐かしい古い映画かと思っていましたが、子ども達にも選んでもらっているということで、視聴覚教材を非常に有効に使っている。また、ポップコーンを作って皆で楽しんだりお祭りのような要素も含めながら、子ども達を活性化し地域とのつながりを作る非常に良い事業だと感じました。

仙台市としても、地域と学校、子どもをつなぐコミュニティスクール事業をさらに推進していくと聞いていますが、こういったすでに形が見えている活動もぜひ参考にしてほしいし、私達も啓発を受けながら活動していけると良いと思いました。

副会長：「青陵インパクト」について、まだどなたかご意見ありますか。はい、お願いいたします。

委員：私は国見ヶ丘に住んでいるので、「青陵インパクト」の活動については興味があります。国見駅から青陵中等教育学校の生徒達が20分以上歩いて通学しているのをよく見かけます。その関係で、住民の方が、生徒達を見る機会が多く、そういった意味で町内会から声を掛けたのだろうかと思っていました。地域と生徒の関係で、生徒の方からはあまり働き掛けをしておらず、反対に町内会の方から働き掛けしているという今回のような状況では、生徒の方ではただ通学途中にあるというだけで地域に関与するという意識は生じないのではないか。そこを市民センターの方でうまい具合に橋渡しのような形をつないでいただいたのだと思うのですが、かなり苦勞されたのではないか。色々なアイデ

アにより結び付けていったのではないかと思いますので、差し支えなければ教えていただきたいと思います。

青葉区中央市民センター社会教育主事：私自身、大切にしているのが「楽しくやろうよ」ということなので、何をするにも「楽しく」を心掛けています。町内会からの意向を伝えた際、自分達は様々な地域から通っているよそ者と思われているのではないかと、という意識があったため、町内会から誘われたことを率直に喜んでいました。また、町内会の役員をしている母が、いつも大変だと言っているが、実際に町内会活動に触れてみると、母はとても良いことをしているのだということが分かり、これからは、「お母さん頑張っ」と褒めてあげたいという子どももいまして、親への非常なプラス評価に働いたというケースもありました。その他、訪問する町内会のメインイベントが芋煮会と餅つき大会だと聞いた際には、お餅が食べられる！芋煮が作れる！子ども達ががぜんやる気になり、楽しんで参加していたという印象を持ちました。

副会長：ありがとうございます。時間の関係もありますので、「南光台をもっと元気に委員会」の方に移らせていただきます。どなたかご意見ありますでしょうか。はい、お願いいたします。

委員：今期初めてこの審議会に参加し、宮城野区の「つるっこ画樹園」の視察に行かせていただいた際は、子ども参画型のプロジェクトがあることに非常に感銘を受けて帰ってきました。

今日お話を聞いた事業について質問します。「南光台をもっと元気に委員会」の「南光台ウォークラリー」では、参加をグループや家族に限定する等コロナ禍の中での安全対策を取られて実施されたかと思いますが、家庭、学校、区中央市民センターの後押しがあったとのことで、これが本当に大きいと思うのです。また、4店舗ほどのお店の協力もいただき、その他にも様々な地域団体の協力を得ながらとあったのですが、どのような団体だったのか教えていただければと思います。

南光台市民センター館長：「ウォークラリー」を実施することになり、何をどのようにしていくか考えていく過程で、個人にするかグループにするか、またどこに募集をかけるのか等様々なことを子ども達と話し合いました。その中で、小学6年生の子ども達は、やはり小学生にはぜひ来てほしいとなりました。ただ、小学生には、基本的にどこの小学校でも、学区外に子どもだけでは行ってはならないという大きな制約があるのです。先ほどお話しましたように、当センターは3つの小学校を担当エリアとしていますので、学区を越えて参加してほしいという子どもたちの願いがありました。そのためには、子どもだけでは無理だとしたら、来てもらうためにはどうすれば良いだろう、親子であればきっと大丈夫なのではないか。また、ポイントを7箇所作ったのですが、スタンプの関係で途中で誰も付くことができない状況です。マップはこちらで作ったものをお渡しして、そのマップを見ながら歩いてもらうウォークラリーだったので、途中の安全確保はスタッフではできない。ではどうすれば良いのか。一人で参加した人が途中で何かあったら困るので、親子等3名以上のグループでの募集としたのです。安全面や小学生の制約を乗り越える方策として、親子やグループ3名以上での参加として募集をかけたところ。おかげさまで、全部で16組集まっていたので、子ども達の思いは少し達成できたのではないかと考えています。協力いただいた団体としては、お店に関しては、子ども達が日頃の生活の中でお願いしたい、ポイントにしたいと思っていたお店を数店舗リストアップしまして、今回の設定の1時間半位で回るができる距離を考えて市民センターを中心とし

て範囲を定め、その範囲内にあるお店を決めました。その後、委員のメンバーと市民センター職員が直接お店に伺って趣旨と内容を伝えてご協力をお願いしご検討いただいたというのが、まず第一段階でした。その前段として、南光台商店街振興組合という地域の団体に相談したところ、直接各店に行った方が話が早いということだったのですが、振興組合の会合でもお話いただいておりますので、うまくつながっていったのではないかと思います。また、「南光台おやじの会」という、市民センターが平成30年度からの複数年事業で育成しているおやじの会と協賛したほか、地区内に3つある子ども会育成会のうち、「お膝元」である南光台校区子ども会育成会にお願いして、予算的な面も含めてご支援いただきました。

副会長：ありがとうございました。

昨年11月と12月に「子ども参画型社会創造支援事業」の視察を行ったところですが、出席された委員の方からご意見や感想など伺いたいと思います。まず、宮城野区鶴ヶ谷市民センターの「つるっこ画樹園」についてお願いします。

委員：現場を見させていただいて、実際に生徒達や担当者の方などに色々とお話を伺いました。内容としては、本当に様々なことが行われていて、体育館でのコンサート、絵や写真の展示、子どもが気軽に作れるようなバッジを作るスペース、さらに、コロナ対策をしっかりとしながら生徒達がコーヒーを出してくれるカフェのようなところもありました。地域の方がかなりいらっしゃっていて、生徒に話を聞いても、普段は学校や部活の中でしか交流できないのが、地域の方に声を掛けてもらい、来年もやってねと言ってもらえる、そのような交流が生まれるのがとてもうれしいと。生徒達にとって地域に対してそういった関わりや愛着のようなものが生まれやすい事業なのだろうというのを感じました。一方、地域の方の側にとっても、非常に良い場所になっていたのではないかと思います。コロナのために遠出などもできない中で、あのような本当に近場で生徒達、若い子ががんばっているというだけでかなり元気をもらえる。また、様々な年代の人が気軽に行って子どもをちょっと遊ばせておくようなこともできる場になっていたのも、そういった意味でも助かる場所だったのではないかと思います。地域の方、このイベントを企画した生徒達双方にとって非常に良い影響が生まれる事業だと思いました。

副会長：続いてお願いいたします。

委員：先ほど感銘を受けて帰ってきたとお話しましたが、「子ども参画型社会創造支援事業」は初めてだったものですから、宮城野区の事業には最初はどのようなものか全く分からない状況で出向いたのですが、受付に入った時点で、先生方はあくまで補助のような形で子ども達が皆生き生きとして対応している。先ほどもお話がありましたが、体育館でのギターコンサートでも、司会進行等を子ども達が行っていました。活動している中学生に、「全部自分達でやっているの」と聞くと、「そうです。」と。次に2階に上がると、缶バッジを作っていたり、地域の昔と今の写真の展示。鶴ヶ谷には10何年振りに行ったのですが、町が新しくなっていて驚きました。「つるっこ画樹園」自体も、子ども達がたくさん運営や企画をしていてとても新鮮な感じがしました。最後に終了間近だったのですが、カフェに寄り、担当の先生とお話をしましたら、どのようなコーヒーにするかを始め、砂糖などどのようにしたらいらした皆さんがおいしいコーヒーと思ってくださるか、子ども達が全部色々と考えて、

私は一切手を貸していないとのことでした。子ども達が地域の皆さんにおもてなしをするというその気持ち、これからこの地域をこの子ども達が担っていくことを非常に感じました。防災でも、高齢化が進んでいる地域では、子ども達、小学生・中学生が半分は地域に残るということで、その子ども達が担っていくのだということを私もよくお話しているのですが、これから町を生き生きとさせるためには、市民センターが中に入って行って、学校、市民センター、地域が協働して企画していくことが必要で、今回の事業がまさにこれだったと非常に感銘を受けて帰ってきました。

副会長：それではお願いいたします。

委員：「つつっこ画樹園」に行かせていただきました。先ほどのお話にもありましたが、最初にさわやかな挨拶と丁寧なご案内で、接遇研修も行ったと聞きましたので、それが活かされており、今回のイベントだけではなく今後も活かされるだろうと思いました。私は展示のみを見せていただいたのですが、鶴ヶ谷のそちこちの風景を描いていて、子ども達のコメントには、うまく描けなかったとか下手だとかあったのですが、絵は上手下手ではなく、やはりその対象とじっくり向き合って時間をかけて見つめて描くということが大事だと思いますので、その対象を見つめる子ども達の眼差しと、そうやってできた鶴ヶ谷の風景の絵を見つめる来場者や地域の方々の眼差しがとても良かったと思いました。私も絵に見入り、中の一枚の絵の標題に「我が市民センター」とあって、我がとつける、呼んでいる自分たちの居場所・活動場所となっていることのすばらしさも良いなあとしみじみ思いました。

副会長：それでは、次に若林区中央市民センターの「チャボ！」についてもご意見や感想などをお願いいたします。

委員：当日は、前半、市民センターの中庭というか外庭で白菜など野菜の畑を作っていて、その収穫から始まり、後半は、地域のお年寄りの方達にお弁当を配る事業があるのですが、それに手紙を添えるという作業を皆で手分けして一人ずつメッセージカードを作っていた様子でした。子ども達の参加数は大体15～6名位だったと思うのですが、複数の小学校、一部は中学校から参加していて、それぞれの学校から来ている子どもたちがその場において垣根なく一緒に話をしながら、あるいは同じ学校でも、例えば高学年と中学年の子が話をしている、学校の色々なことを学年を越えて話をしているといことが、普通に学校の中で授業を受けているだけではなかなか起こりえないことなので、大事なことだろうと思いつつ拝見していました。「チャボ！」では、グループで歌を作っていて、それをお披露目してくれたのですが、作詞は確か子ども達皆で、作曲は子どもがしたものなのです。CDにしたものを聞かせてくれたのですが、何度も流してくれて、それだけ愛着を持っている。先ほどの鶴ヶ谷の事業についてのお話にもありましたが、参加している子どもにとってその活動がやはり拠り所になっており、それが形を成しているのはすばらしいことだと思います。一方、このような展開であってももっと面白いのではと感じたこともあります。これまで私が述べてきたのは現在の地域社会、今顔を合わせている人達とのふれあいをどのように大切にすることだと思うのですが、一方で過去とのつながりも大切なのではないかと。今、市民センターで白菜をささやかに作っていますが、もっと広域に市民センターのみならず色々な場所に、少し離れた農園で一緒に何かするということがもっと増えてくると、より地域理解が進む、地域の様々な情景を活動の中で体で覚えていけるよ

うなことになるのではないかと思います。

副会長：ありがとうございました。お願いいたします。

委員：本当に多様な活動をしていて、逆に言うとあのような活動に参加していない地域の子ども達ももっていないというのが感想です。先ほどおっしゃっていたのと同じで、特にダンスソングというのがあるのですが、子ども達が全部主体的に歌詞を考えたり、曲を作ったり、演奏したりしており、五感で歌を歌って表現するという工夫が非常にすばらしいと思いました。その他、地域の連携、学年を越えた活動といったところも本当に構造としてすばらしいと感じました。本当に多彩な活動をしているのですが、それらが切れ切れではなくストーリーやつながりが全体として見えるようになると良いのではないかとというのが感想です。

委員：私も「つるっこ画樹園」の視察に行ってきました。コンサートから全部一通り見せていただいたのですが、子ども達と一緒に学院大の学生の方が4、5人手伝ってくれて、中学生を色々と指導しながら活動しているのを見て、お兄さんやお姉さん達に聞ける場があるというのはとても良いことだと感じました。その点を子ども達にも聞いてみましたら、「楽しいです。」という言葉が第一に返ってきたので、本当に良い会だと思いました。また、地域の絵を描くということだけではなく、日常をさっと走り書きしたような絵まで置いてあり、中学生の非常に複雑な感情が手に取るように分かってくる。きれいに描かれた絵だけではなく、本当にただ、ささっと漫画のように描いていたり、線だけ描いてあるといったものも全部展示してあって、一つひとつを認めていくこと、自己肯定感が非常に大事だということはこの時感じました。一つひとつ何なんでも受け入れてあげて、何でも取り上げてあげるってことは大事だと思うし、老人会か町内会の方達が撮った写真を絵にしたものをまた展示するというのでつながりもでき、写真で撮るのと絵で描くのでは違って見える。どのように描こうという気持ちまで受け止めることができたので、私はすごく良い展覧会だったと思いました。プロの先生を招待して教えていただいております、学校で5回としたら1回が市民センターで教えてもらって描いています、ととても自信あり気に言っていたのがとても良かったと思います。

副会長：ありがとうございました。それではお願いいたします。

委員：私も「つるっこ画樹園」を視察しました。全体の内容は皆さんお話されているとおりなので割愛して、私は特によく見させていただいた写真と絵についてお話します。最初に見た際は、写真も絵も印象に残らなかったのですが、おそらく3回位見て、コメントもほとんど読ませてもらいました。最初、非常に上手な絵があることに気付き、なぜこれほど上手なのかと聞いていたら、実は先生が描いていたというのが後で分かり、さらにしゃれっ気のあるコメントが付いていたのです。そのような遊び心のあるところが面白く思いました。また、生徒達は絵を描く際、自分が興味のある色々な場所を何か所か見て、最終的にターゲットを決めてそれを描いたのだらうと感じました。さらに、描く際は、対象物をしっかりと、じっくりと記憶に残すような形で見たのではないかともし思いました。生徒達は、その地域自体を丸ごと理解しないと描けない状態になったのではないかと。ということは地域そのものに愛着が湧き、その愛着は継続的なものとなっていったのではないかと。将来何年か経ったら、自分が描いたその地域の風景をもう一度立ち止まって見て、もう一度対象と向き合い、過去がどうだっ

たか、未来がどうであるかという形でつながっていくのではないかと思います、生徒達の成長を見てみたいと感じました。写真も同様に、過去、現在、未来を想定して撮っているような感じがして、生徒自身の能力の発達に資するようなものであって、特に写真と絵についてはそういう意味で非常に良い取り組みだったなと思いました。

副会長：私も「チャボ！」の視察に行き、高齢者のお弁当に手紙と絵を添えるという活動を見させていただきました。特に、4年生で初めて参加したというある児童が、初めて書いたという手紙とそれに対するお返事をとてもうれしそうに私たちに見せてくれたのが印象的でした。また、手紙にはお弁当の献立も書き添えるのですが、その中に知らないメニューがあれば質問して、献立を理解した上で書いているというのが非常に良いことだと感じました。

二つの事業に関して、事務局からも何かご説明があれば改めてお願いします。

事務局：事務局からは特にございません、ご意見ありがとうございました。

副会長：ありがとうございました。はい、お願いいたします。

委員：私は住まいが南吉成で、吉成地区も非常に詳しいですし、それ以上に青陵中等教育学校が非常にがんばっているってこともよく知っておりまして、本当に素晴らしい学校です。国見というところは特別なエリアで、東北福祉大学という大学もあって、仙台市の他のエリアとは色々な意味で少々違う。青陵は中高一貫なので、非常に積極的にエリアに入ってくる。地域の小・中学校も素晴らしいのですが、高校が入ってくるということでまた特別なのです。

また、南光台にもゆかりがあって、南光台もまた独特のところですよ。開発した当時から、幼い時から住んでいたところなのですが、今は大規模のお店が中心になり、駐車場がないと商店街ではどうしようもなく大変苦戦しているようです。そういった中で市民センターや小・中学校ががんばっておられて、素晴らしいところです。昨日、近くの弁当屋さんに珍しく弁当を買いに行ったところ、横に子ども達が「おじさん、おばさんありがとう」のようなことをたくさん、何十と書いたものがあり、本当によくがんばっていると思いました。

ただ、町内会として、考えておいていただきたいこともあります。子ども達が一生懸命に活動しているのは素晴らしいし、本当に来てもらいたい。しかし、子ども達が来るとなると、1時間活動してもらうためには、2、3時間町内会または担当者が、アヒルの水かきと同じで見えない部分で一生懸命努力して時間を使って準備しているのです。ここが非常に紙一重のところ、我々が今、子ども達と何かする際は、子ども達の思い出作りのようなことに全力をあげるという程度のことで十分なのではないかと私は思っているのです。将来は、このような時代ですから町内会が今のような活動をしていくことは難しい。ただ、両方の地区は素晴らしい地区で、これからもぜひ皆さんの言葉で広めていただきたいし、生涯学習支援センターや教育委員会もこのような例を出してどんどん広げてもらえればありがたいと思います。

最後に、資料から話が飛んでしまいましたが、私は市民センターというのは地域の子ども達や高齢者の方達のため、ボランティアで活動するという方達はたくさんいるはずですから、色々な団体等も入れて、24時間開けておいて良いと思っているのです。経費は掛かるかもしれませんが、このようなことのために市民センターはあるべきなのではないかと思っています。

副会長：ありがとうございました。最後に何かありましたら。

委員：「青陵インパクト」と「南光台をもっと元気に委員会2」についてお話を聞かせていただき、とても合点のいく、すばらしい取組みだと思いました。コロナ禍で、生活にもご苦勞されている方が非常に多い中、自分や自分の町を見直すといった良い面も一方では出てきていると思うのです。その好例が先ほどの両事業で、子どもが主となるまちづくりであり、将来に向けて明るい話題になっているのではないかと思いました。まちづくりということに加え、両事業とも報告書の中で目が留まり、良いことだと思った点がありました。「南光台をもっと元気に委員会2」では、シアター、ウォークラリー、かるたの参加者や地域の世代間交流も進み、地域のつながりが深まったという点。「青陵インパクト」についていえば、小学生に加えその保護者やシルバー世代の方ともゲームを行って世代間交流を行っている点。この状況の中で、注意を払っての上とは思いますが、こういった活動ができていくこと自体が非常にすばらしいことだと思いました。

南光台市民センターの館長さんが、子ども達と接する際に気を付けていることとして、子ども扱いをせず、できる可能性を探るようにしていると話されていましたが、それは子ども達にとって非常にワクワクすることにつながっているのだろうと思いました。私が、イベントや催し物を行う際一つだけ気を付けているのが、人を動かすということです。人が動くのは、ワクワクするかどうかで、そのワクワクをどのように伝えられるか。伝える人を増やすことでできれば、その催し物はきっと成功すると思っています。先ほどの館長さんの言葉や二つの事例は、まさにそういったワクワクすることを目指されている。だからこそ、子ども達も楽しくこの事業に取り組んでいるのだろうと思いました。南光台市民センターの「巨大かるた大会」には、ぜひ視察に行きたいと思っています。

副会長：他にございませんか。はい、お願いいたします。

委員：このような評価等を行う際は、評価シートといったものを毎回提出していますが、今回は提出しなくても良いのか、確認させていただきたいと思います。もちろん、感想はメモしているのですが。

事務局：評価シートにつきましては、次回3月定例会でご相談させていただく予定ですので、よろしくお願いいたします。

副会長：ありがとうございました。本日、予定していた議事は以上ですが、委員の皆様から何かございますか。他になければ事務局にお返します。

以上

副 会 長

会議録署名委員
